

会議の概要

令和4年度 第3回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼
- | | |
|----------------|----------------|
| ○ 大山幼稚園学校運営協議会 | ○ 玉井幼稚園学校運営協議会 |
| ○ 大山小学校学校運営協議会 | ○ 玉井小学校学校運営協議会 |
| ○ 大玉中学校学校運営協議会 | |

日 時：令和4年7月5日（火）18:30～20:30

場 所：改善センター 全体会：多目的ホール（1階）

【おおたま・オータム・フェスタ分科会】

- ①スポーツ交流イベント部 … 多目的ホール
- ②昔遊び・グラウンドゴルフ部 … 多目的ホール
- ③大名倉山登山部 … 農事相談室
- ④安達太良ふれあい登山部 … 農事研修室
- ⑤オリエンテーリング部 … 健康相談室
- ⑥ミニ運動会部 … 生活改善室

【学校・園別分科会】

- 大山幼稚園 … 多目的ホール
- 玉井幼稚園 … 多目的ホール
- 大山小学校 … 農事相談室
- 玉井小学校 … 農事研修室
- 大玉中学校 … 健康相談室

（進行 指導主事 渡邊 博樹）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

皆さん、こんばんは。足下の悪い中ご参加いただきありがとうございます。これより令和4年度第3回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （おおたま学園CS委員会会長 伊藤 和弥）

改めまして、お晩でございます。本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今日は、おおたま・オータム・フェスタについての話、そして、後半は「保護者・地域住民が主体的に教育活動へ取り組みやすくするためには」という題で熟議を行います。

ちょっと前に話していたのですが、私たちの地区でも子どもたちを集めて行う地域の祭のようなものを10月に行っていたのですが、ここ2年程できなくて、今年何とかできないものかなと思っています。それぞれの地区では、子どもと関わる行事がどのようになっているのかなと思いながら話を聞いていたところです。コロナの関係を考えるとやるのが難しいという考えがある一方で、何かしら活動したいなという思いもあります。もちろん公的な行事は行う方向で進んでいるのですが、地域の中の行事はなかなかできない状況になっています。そういうものがコミュニティの活性化とか保護者や地域の人たちとのつながりを生むということもあると思いますので、どんなふうにやれるのか知恵を出し合っていただくと助かるなあと考えているところです。

今日も時間が限られた中ではありますが、いろいろ熟議しながら、よりためになるような話し合いができればと思います。本日もよろしくお願いいたします。

3 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘）

○ 皆さん、こんばんは。委員の皆さまには、前回の大山小学校・大山幼稚園のオープンスクールからまだ10日程しか経っていない状況でまたお集まりいただきましてありがとうございます。また、

今回は各学校の担当の先生方にもおいでいただきました。勤務時間後の参集ということで大変ご負担をおかけしますがよろしくお願いいたします。

○今回は、回数で言うと3回目ということになります。1回目の熟議の際に私が各部屋を回らせていた中で、幼稚園の会場だったと思いますが、

「学校・園を支援する取組についていろんなアイデアが出てくるのだが、いろいろ考えてるだけでは仕方がないので、やれる人がやれるときにやる（少人数の）プロジェクトチームをつくって取り組めないだろうか。様々なことができるのではないだろうか。」

という意見が出されたのを覚えています。なるほどなと思い、確かにしっかりとした計画を立ててきちんとやることも大事なのですが、やれるところから始めるという発想も大事なのかなとその時感じました。

今考えているのは、このCS委員会と地域学校協働活動の連携をより一層密にする、活動を一体化すること、そのためにこれからどういうふうに進めていったらいいのかということです。このCS委員会と地域学校協働活動を進めるための話し合いをする地域教育協議会を一体化していったらいい、一つの集まりの中で開催し効率的に話し合いを進めて実行に移せる体制ができたらとなと考えているところです。（まだ決定しているわけではありませんが…。）

○最近「ああ、なるほどな」と思ったことがあります。先日、中学校の総合的な学習の時間でいくつかのグループに分かれて体験活動をやっていたわけなんです。その中の一つに「CSや地域学校協働活動とはどんなものなんだろうか」ということを勉強しているグループがありました。そこに指導主事とコーディネーターが招かれていってお話をしてきたのですが、その時子どもたちから「私達もCS委員会に出てみたい」という意見が出されました。我々は、ここでいろんなことを話し合っ、子どものために、学校園のためにと思いながら進めているわけですが、実際に子どもたち本人の考えや気持ちを聞く機会があってもいいのかなと感じました。もちろん、子どもたちにCS委員になってもらうことは難しいと思いますが、何らかの機会にこういった話し合いをしている姿を子どもたちに見てもらいたいと思います。ぜひチャレンジしたいものです。

○さて、今日はおおたま・オータム・フェスタについての話し合いを中心に進めていただくわけですが、子どもたちの立場に立って考えると、どんな取組をしたら子どもたちのためになるのか、そんな視点で話し合いを進めていただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



4 諸連絡 本日の日程・内容について

本日は大きく分けて以下の2点について協議を進める。

(1) おおたま・オータム・フェスタについて（各部に分かれて）

- ・バス運行表の確認
- ・実施案の検討
- ・コロナ対策の視点等について
- ・村内関係団体への依頼事項（協力内容・人数）
- ・今後の日程
- ・保護者ボランティアの募集について

※ 雨天の場合は10月2日（日）に延期。2日（日）も実施不可能の場合は中止。

実施可否の判断は前日30日（金）正午に行う。（教育委員会と校長で）

- ・終了後全体共有を行う。（再び多目的ホールに集合して、全体で確認すべき点の確認）

(2) 学校・幼稚園毎の意見交流（小グループによる熟議）

- ・テーマ「保護者・地域住民の教育活動への協働・参画を増やすためには」
- ・全体共有（各グループ3分程度）
- ・全体での意見交流

5 協議

(1) おおたま・オートム・フェスタについて（各部に分かれて6グループで）



(2) 全体共有

① スポーツ交流イベント部

（部長：玉井幼稚園副園長 後藤弥和子）

- 10月14日（金）9:30～11:15 計画は昨年度のものほとんど変わっていない。

- 小・中学校と別日に行われるので、時間帯・内容・準備品について確認した。
- 今後、スポーツ民謡会とコンタクトをとって、どんな曲にするか考えていきたい。
- 感染対策について

- ・マスク…子どもは外す、大人はつけるを基本とする。各種団体については、「個々に任せる」、「距離を置く」という意見が出たのだが、他の部会ではどのような対応をとるのか教えてほしい。

② 昔遊び・グラウンドゴルフ部 （部長：大山小学校 教頭 高橋 秀幸）

- バスの運行計画については案通りをお願いしたい。
- 場所は大玉中学校体育館・グラウンド、武道館とする。
- 協力団体は約80名
 - ・保護者ボランティアについて…今までは豚汁作りのサポートをしていただいていた。今回は保護者の募集は行わないで、各種団体と中3生の協力だけで運営に当たってはどうか。

- 小・中学生の班編成について
 - ・ 2つの小学校合同、1，2年生12～13名で1つの班とし、16班編成している。このまま進めてよいだろうか。また、今年度は各班に中学生を1～2名リーダーという形でつけて、昔遊びのブースを廻ることを考えている。この点についてもご意見をいただきたい。

③ ミニ運動会部

(部長：大玉中学校 教頭 星 雅人)

- 日程 … 午前中は競技をし、その後昼食をとり、各校に戻って活動の振り返りをしてから解散するという流れとする。
- 各校で練習や準備の時間がとれないので、みんなが知っている種目を3つ選んだ。(綱引き、玉入れ、全員リレー) 競技に関しては、これから細かい部分をつめていきたい。
- ボランティアについて
 - ・ 数は多くなくてよい。(防犯協会のみ)
 - ・ 保護者ボランティアは必要ない。見に来ていただくようにする。

④ オリエンテーリング部

(部長：大玉中学校 中村 俊明)

- 計画通りに進める
- 名簿作成について (班編成)
 - ・ 各小学校に事前に案にあるようなグループ数の組み分けをお願いして作っておいてもらう。それをもとに7月28日(木)の合同打合せ会の折に班編成について協議する。

⑤ 安達太良ふれあい登山部

(部長：大山小学校長 齋藤 和久)

- 計画通りに進める。
- 昨年度より(4年生の)参加数が10名程増加したので14班編成となる。
- 「児童の指導全般」担当について
 - ・ 大山小の中村教諭は担任の子どもの支援のため担当をカットし、小椋CS委員を「活動支援」から変更して加える。
- 服装 … 薄手の長袖も可とする。
- 8月4日(木)に下見を行う。

⑥ 大名倉山登山部

(部長：玉井小学校長 佐藤 則之)

- 頂上が狭く100名が入るにはきつい場所であるので、A班、B班を編成し30分の時間差をもうけて登頂する。
- 昼食をとって下山する。
- 個人差が大きいことが考えられる。途中で交差する場面もあるかもしれない。場所をしっかりと確認しながら柔軟に対応する。
- 8月3日(水)午前中に下見を行う。(部員)
- 保護者ボランティアを募る。(大山小、玉井小)

(3) 意見の交流

(渡邊指導主事) 2つ確認したいことがあります。スポーツ交流部から出た関係団体のマスク着用についてご意見があればお願いします。基本的にはマスク着用は原則なのかなと思いますが、やはり子どもたちと同じで、息苦しさや暑さがあれば外しても仕方がないのかなと思いますがいかがでしょうか。そのような対応でよろしいでしょうか。

～ 全員が賛同 ～

ではそのようにお願いいたします。

続いて昔遊びについてなのですが、保護者なしではどうかという意見がありました。これについて何かご意見はありますか。一応保護者ボランティアを募集するということなのですが、中学

生との交流ができなくなってしまうのではないかとということもあったのですが、ご意見は…。

～ ない様子 ～

本来の目的である子ども同士の交流が一番大事だと思いますので、昔遊びについては保護者なしで行うことにしたいと思います。

以上でオータム・フェスタについては終了します。先生方ありがとうございました。

それでは、この後は各校・園ごとに分かれていただき、本日のテーマについて熟議をしていただきたいと思います。8時15分までということで忙しいですが、よろしくお願いします。

—— 休憩・移動（各会場へ） ——

（2）学校・幼稚園毎の意見交流

テーマ「保護者・地域住民の教育活動への協働・参画を増やすためには」



① 全体共有

ア 大山幼稚園・玉井幼稚園

（玉井幼稚園副園長 後藤 弥和子）

- 保護者や地域の方々が幼稚園に入ってこれるようになるのにはどうしたらいいかということについて話し合った。その中で、保護者の読み聞かせボランティアを募ったらどうかという意見が出た。例えば、赤ちゃんがいる方でもだっこして連れてきてもらってもいいし、どんな形でもいいので保護者が参加する場があってもいい。「希望者を募集→行う期日の決定」という流れで実践できそうである。2学期からすぐに取り組めるようなことなので、検討をしてすぐにやっていきたいと考えている。（「検討して、検討して…」ではなくて、フットワークを軽くして動けると次につながっていくのではないか。）
- 前回CSで話し合ったことで、すぐに麻生委員さんに対応していただき、大山幼稚園では草花つみに出かけることができた。どんどん意見交換をして、その内容を取り入れる等して、保育に生かせるといい。
- 様々な会議があるのだが、CSで話し合っていることと地域学校協働活動本部で話し合っていることやテーマが似ている。一緒にした会議があるといいのではないか。今、縦に分断されているような気もするので、横のつながりでその話し合いができるといいのではないか。

- 月曜日の午後、J Aの前のスペースで今井委員さん達が中心になって“まちなかホーム”という名称で小学生が集まって宿題をしたり遊んだりするふれあいの場を実施していることを知った。以前からふれあいの場があるとは聞いていたのだが、年配の方々が集う場というイメージだった。小学生も集える場になっていて、その場にボランティアの方が来ていること、また、何かしら手伝いができればいい等のことをこの話し合いの中でできた。そういうことも地域住民の主体的な教育活動につながるのではないかと思った。いろいろ情報交換ができたので、この時間は有意義であったと感じた。



イ 大山小学校

(大山小学校長 齋藤 和久)

- 先週末に5年生が村の施設を使って自然体験学習を行ったことが話し合いの切り口になったのだが、直売所の矢吹店長さん(C S副会長)やアットホームの荒井料理長さんたちの全面的バックアップで子どもたちの活動を支えてもらった。

なぜそんなことができたかというところ、5年担任の思いによるところが大きい。「子どもたちにこういう経験をさせて、こんなふうに伸ばしていきたい」、「こんな思い出を作ってあげて、子どもたちに自信を持たせてあげたい」という思いをストレートに述べ、「そのためにこういう協力を



をしていただきたい」、「こんなことができないか」等素直に話していた。それを矢吹さんや荒川さんたちが聞いていて、さらに提案を加えていただいて素晴らしい計画になっていき、子どもたちにとって大満足な活動で終わることができた。結局、保護者や地域の方々が学校の活動に取り組みやすくするためには、教員が「こんなことをやりたいが、どうしようかな」という最初のアプローチが大切であるということを感じた。

- 教員がいろいろなアイディアを持てるようにするためにはどうしたらいいのだろうか。朝から遅くまで学校にいたのではそういったアイディアは出てこない。何とか業務を精選して、先生方が他での活動とか地域活動とかを経験したり、自身が外に出て行っているとなつなかりを作ったりして、「こういうものがあるんだったら、うちの子どもたちもできるのではないか」等考える機会がなければ、先生方の新たなアイディアも生まれないのではないと思う。

気軽に「こんなことをやりたいがどうか」と言ってもらえるよう、私自身も先生方の声をもっと聞けるような校長としての器を広げていきたいと思っている。

ウ 玉井小学校

(玉井小学校長 佐藤 則之)

- 私たちは、「保護者・地域住民が主体的に…」というところで、保護者にどのようにすれば学校に足を運んでいただけるようになるのかについて話した。
- コロナ禍前は、もっともっと保護者が学校に足を運び、子どもたちの教育活動にご支援をいただいたり、サポートをいただいたりする機会が多々あったのではないかと考えている。ただ、コロナ禍で感染対策という名の下にその機会がどんどん制約されてしまって、保護者が学校に来たくても来れないような状況になってしまった。コロナ禍が1年目、2年目、3年目と経過するにしろ、ここはきちんとやらなければいけないけれども、ここは大丈夫だろうというところも見えてきている。実際に本校の教育活動を見ても学校支援ボランティアには来ていただくようお願いしているのに、保護者にはその機会が少ないのが現状である。保護者にもっともっと学校から、「ぜひお手伝いください」とお声がけしてもいいのではないかと、というご指摘をいただい

た。本当にありがたいことだなと思う。

- 先生方は、地域の方々に積極的に授業に入っていただこうと思っている。ただ、ここ2～3年のうちに本校の職員組織がガラッと変わったという現状もあって、コロナ禍を踏まえて保護者にボランティアをお願いすることを私たちは忘れていないのだろうか。それが反省点としてあげられる。そのあたりについては、PTAの方々からご指摘をいただいた上で少しずつ始めたいなと思い、すでに動き始めている。実際には、調理実習が始まった時にPTA学年委員長さんにお声がけして授業の支援をしていただく等、子どもたちの様々な活動の際にすぐに学校支援ボランティアというのではなくて、まずは保護者の方に声かけしてはどうだろうかと思っている。
- 保護者の方に消毒ボランティアをお願いしてもいいのではないかと改めて思っている。「できる時に、できる方が、できる範囲で」いいと思っている。いついつまでに必ず行かなくてはならないということではなくて、この日行けると思ったときに来ていただいて、作業時間は30分なり、15分なりいくらでもいいので、そのついでに子どもたちの勉強の様子をちょっと覗いていただいたりしながら…。そんなことを今回始めようかと思っている。それを保護者にPRしていくために、学校日より、学年日より等を活用しながらお声がけしていきたいと思う。
- もう一点提案させていただいたのは、保護者がボランティアという立場ではなくて子どもたちと同じ目線で、つまり学習者の一人として学校に来て、子どもたちと一緒に授業を受けてみる機会があってもいいのではないかとということである。それは、もともと大玉出身ではない保護者の方がけっこういらっしゃる。子どもたちは、総合学習の授業の中でふるさとを学んであり、いろいろな地区のよさを学んでいる。そこで保護者にも一緒に授業を受けてもらう取組をしてはどうかなと思っている。2学期になると思うが、学校からも発信して、手を挙げてくださった保護者の方に子どもと一緒に総合の調べ学習をやっていただく機会がもあっていいし、また、幅を広げて道徳や教科の学習等で、先生方は今はこんなふうにして子どもたちと授業をつくっていることを知っていただいて、子どもの立場になって学んでもらうというのもいいのではないかなと思う。



エ 大玉中学校

(大玉中学校長 安田 浩明)

- テーマが「保護者・地域住民が主体的に教育活動へ取り組みやすくするためには」ということで、この中でも「主体的に」というところに注目した。主体的に取り組むためには、何にどんなふうに参加したら教育活動に取り組みやすくなるのかということを、つまり地域や保護者の方に「何がやれるの?」「どうすれば参加できるの?」ということが分かりやすいように情報を発信する必要があるということだった。やみくもに学校に行っても役に立たないだろうと思うので、まずは学校として「こんな教育活動を行います」ということを発信して、保護者や地域住民が要望に応えるという形でやってみて、そして、そのうちにそんな活動を通して、「それなら私たちもできる」と言えるような流れをつくっていければいいという意見が出た。

一例を述べると、最近総合の学習の時間に地域の美化活動（ゴミ拾い）を行ったのだが、実践に当たって、防災無線で地域住民に



「一緒にいっしょにやりませんか。」と呼びかけたところ、“それならできる”ということで参加してくださった方がいた。そんなふうには、具体的に「こういうことで一緒に取り組みませんか。」「こういうことをお願いしたいのですが、どうですか。」等発信していくことが大事なかなと思う。

○ 本校ではアルミ缶を回収している。「家にあるアルミ缶を持ってきてね。」といつも子どもたちに呼びかけている。でも、残念ながらそれだけでは集まらないのが現状である。私が以前勤務していた学校で同じようなことをしていたのだが、桁が違いくらい多く集まっていた。何が違うのかというと、その地域では住民の方が自由に自分が飲んだビールの空き缶を学校にもってきたださっており、そういう方がたくさんいたので必然的にたくさん集まっていた。つまり、日頃から地域全体に伝えていて、ご協力をいただいていたからであると言える。

そういうことを考えると、最初に申し上げたが、「地域に学校としてこういうことをやりたいからご協力をお願いします！」と積極的に情報発信していけば、主体的な取組が保護者や地域の方に浸透していくのではないかなと思う。

② 意見の交流

(渡邊指導主事) ありがとうございます。全体で共有ということですが、大きく3つにまとめられると思います。

- 学校支援ボランティアだけでなく、読み聞かせ等保護者に積極的にお願いしてみるのはいかがでしょうか。(幼稚園、玉井小)
- 教職員が自己の考えをしっかりとって、地域住民、保護者と意見をすり合わせていくことによって、そのアイデアがより良いものになっていく。(大山小)
- 情報発信をすることが大事である。(大玉中)

これらの考えを大切にしながら、次回のCS委員会までに各校園で活動を進めていただければと思います。

ここで質問、意見等があればお願いします。いかがでしょうか。

(麻生委員) 大玉中学校に対してですが、娘が中学校に入学して思ったのは、下駄箱がさびているなということなのですが、保護者ボランティアで塗り替えをしたいのですがどうでしょうか。危なくないように換気をしながら、子どもたちと一緒に、あるいは大人だけでもできるのかなと…。私は商工会の青年部にも所属していて、そこでも同じような提案をしたのですが、別のことをすることに決まってしまったので、ちょっとモヤモヤしていたんですよね。こんな提案はいかがでしょう。

(安田校長) ありがとうございます。ぜひ一緒にということで検討したいと思います。

(渡邊指導主事) では一緒に活動できるようお願いできればと思います。

(今野委員) 先程幼稚園部会から出た話です。結局、親御さんが「こういうことをやってみたい」という思いがあって、それを行動に移すにはいろいろな障害があって、今コロナ禍ということもあり大勢集まるのはダメとか、食べ物も難しいとかがあるという話が出ました。やはり、そこから一歩抜け出すためには、そういった心配事もいろいろ考えられるんですけども、何とか解消する方法を考えながら、保護者や地域住民がいろんな行事を少しでも実行できるような形にもっていけるように、ぜひ教育委員会でも配慮していただければありがたいという思いがありました。

(渡邊指導主事) ありがとうございます。そのことについてもいいですし、他のことでもいいのでいいかなと思います。

保護者は、一歩踏み出す気持ちはあるのだけれども一押しがないとなかなか踏み出せないところもあると思います。その辺についても、しやすい環境をつくっていくというのも非常に大事なのかなと思っております。ぜひ、今後の活動の参考にいただければと思います。

以上で全体の協議を終わりますが、その他で何かございますか。

(吉田副会長) 最初のオータム・フェスタの件についてです。以前の登山の時に実際にあったことですが、女の子が上に行った時のトイレが大変で、その時には引率されていたある先生がトイレ用のテントを持っていってくださっていたので、無事にできたということがありました。準備できるのであればこの備品の中に取り入れるよう検討いただきたいと思います。

(渡邊指導主事) その件については、先程教育委員会でも「やはり必要であろう」という話になっています。検討します。

ところで、昔遊びの保護者ボランティアの件についても別のご意見がありました。先程「豚汁を作るわけではないので保護者ボランティアをゼロにした方がいい」という話になったのですが、前回老人クラブの人たちが休みなしにどんどん子どもたちが回ってきて、その世話でとても大変だったという反省があったということです。子どもたちに休む時間はあるのだけれども、老人クラブの人たちはずっと世話をするので疲れて大変だったということです。それで、保護者や婦人会の方たちが昔遊びの手伝いをした方がいいということになりました。十分に検討して最終案を出したいと思います。

6 諸連絡

- 次回「10月4日(火)第4回CS委員会 全国学力学習状況調査・ふくしま学力調査結果の概要説明、コミュニティ広場等」18:30～20:30(予定)

7 閉会のことば

(おおたま学園CS委員会副会長 館下 愛理)

お疲れさまでした。これで第3回おおたま学園CS委員会を終わります。ありがとうございました。